



お別れパーティー～今年度最後の給食～

いよいよ年長さんとのお別れの日が、日一日と近づいてきました。年長さんにとっては、幼稚園へ登園するのも、残すところ後2日となりました。頼もしく成長していく姿を見るのは、教師としての喜びでもあります。3年前、お母さんの手から離れられず、泣いていた子どもが、包丁を使ったり、幼稚園にお泊りができたりしてとても頼もしく感じるようになりました。

年中さんも年少さんも、この一年で、お母さんの手を離れ、大きく成長しました。年長さんの縄跳びや竹馬乗りを見て、真似をしているうちに、できるようにもなった子どももいます。こうした子どもたちを見ると、いつまでも、幼稚園に居てほしいと思いますが、子どもたちが成長して、次のステップへ向かうのは喜ばしいことです。しかし、去っていくのは何とも淋しいものがあります。

また、今年度末で、お父様の転勤のために転出される年中さんや年少さんもいます。転出される方は、異口同音に「是非、この幼稚園を卒園したかったので、残念です」と話されます。

メインは、年長さんとのお別れですが、今年度末で幼稚園に別れを告げる子どもたちもいましたので、それを含めた形の「お別れパーティー」を、8日(水)に実施しました。

遊戯室で、全員が、年長さんと関わったゲームということから、さくらチーム、うめチーム、ゆりチームの3つに分かれて、ボール送りゲームを楽しみました。この時ばかりは、勝敗は度外視して、みんなで楽しむことが中心で、ボールを落とさぬようにしてボール送りをしました。

お昼は、バイキング給食です。たくさんのお母さんにお手伝いに来ていただきました。遊戯室、教室とそれぞれ好きな場所で好きな人と食べることができる日です。中には、きょうだい仲良く座って食べる光景も見られ、微笑ましく映りました。



高校のお姉さんって優しい

9日(木)にお隣の筑紫女学園高校の2年生が、芸術の授業の一環として、自分達で創作した幼児のためのわらべ歌や手遊びの成果を、本園の子どもたちに披露するためにやって来ました。私が、幼稚園に赴任した時から、幼稚園と中学校・高校の交流を願っていましたから、教頭が、高校の音楽の先生と話し合って実現できたことは、これからの交流を考えていく上での一つの指針になりました。

高校生の大半が初めて幼稚園を訪問し、子どもたちと接しますが、そこは、流石に身に付いた母性原理です。子どもたちとすぐに親しみ、可愛い子どもたちの仕草を見て、高校生も緊張感がほぐれ、自作のわらべ歌や手遊びを披露しました。グループによっては、小道具を使ってお話を演じていました。

また、あるグループは、簡単な踊りを紹介し、子どもたちと一緒に歌ったり踊ったりして楽しんでいました。歌や踊りを教える時の高校生は、まるで、幼稚園の先生になったかのように、分かり易い言葉で、動作を交えて教えていました。このことがきっかけで、幼稚園教諭を目指す高校生が出てくれると嬉しいのですが・・・。

また、これを機会に、もっと中学校・高校との交流が増えるように計画を練っていきたいと思っています。



一年間のご協力ご支援に感謝します

本年度も、保護者会の役員様をはじめ、多くのお父様、お母様に、遊具づくり、花植え、ピカピカ大作戦、給食や図書のボランティアなど、子どもたちのために熱心に活動していただき、深く感謝申し上げます。私も、長く教職生活をしてきましたが、こんなに熱い思いで、協力していただいたのは初めてです。これからも変わらぬご支援とご協力をお願いします。私たち教職員も、これまで以上に、子どもたちを支援していく所存です。